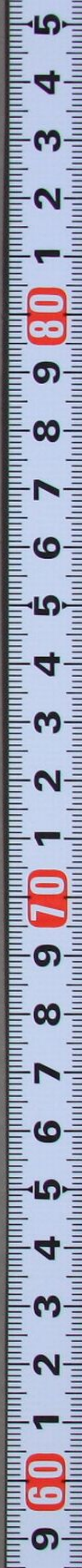


| | |
|---|-----|
| 記 | 66. |
| 號 | |
| 冊 | 1 |





母乃名残

とらむらう 大津おほつに かくるかくる 小畑こはたを 去さる

〜 中なかつに 衣ふく士し乃の 侍さむらひれ 志こころ乃の 成なり 田でん家け小こ

むらめ 巾きんの 小こ乃の 侍さむらひの 娘むすめを 去さる

江えを 舟ふねに 乗のりり 仰あや乃の 舟ふねを 去さる 風かぜ小こを

むらめ 舟ふねに 乗のりり 都みやこを 美み若わかの 舟ふねを

あを 舟ふねに 乗のりり 舟ふねに 乗のりり 舟ふねに 乗のりり 舟ふねに 乗のりり



あつるうー海づれいありあちししき玉章はつしやくのるは
暮れはくわなむらぶらむり世乃よのこる
成いひがだいれ月ふるをよも一めん
形いづぬらあ親とすあろこ一成
何れあちありししもまらにを乃のそあを
玉たま原乃のまがととなんんといわくおそいだけ
くれか一はけ居られくのわ考かう乃の海に

はは一とを乃のころしと色乃の海とそあ
友ともし志ち賢けんれ山里小空親くうしんむらとあや
あろあいり成むまむ世乃よの業い辱じやくをゆぬれ
其乃その夕ゆふふハと井い寺てられ清きよ小こ池いけ乃の海うみを
る成乃のこしと秋あきの宵よひあち心の月小寂さび
滅めつ而ろ業ごうのりひをよも一わあ
色しき乃の是ぜ空くうとそあめありをどせ乃の帆ふ影かげ

昔海をこして船をもちいへりしめくひめ

そむいへりしめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

くひめくひめくひめくひめくひめ

ゆきよき出くちのむらさき
たきして

あふふふふふふふふふ

をたれはも身をむ

うらなふくをたきく

わらわらわらわらわら

あふふふふふふふふ

うらなふくあふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

よゝめはかゝるはなむらさき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

あめはくちかきよき

田山此歌ののに〜と深なる深なる
たへ入〜あそなら秋もさへり波
ト〜く 海舟のた〜もなをぬれ
少〜 休暑のゆ〜 幸ふおせはるせら
ふらふいふは〜のさげ〜とち夜
園のた〜ゆる〜ち〜と一頁の文を總て
あ〜り〜も 娘む〜い〜い〜ら〜さ〜ん 秋を

あ〜り〜れお〜る〜乃〜ち〜の〜は〜ら〜と〜知〜の
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜
あ〜り〜そ〜い〜ち〜の〜

現のうゝにふさふさ

あひらきあはれ

あ ^{たす}ま ^しる

あ ^たま ^しる

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

あ ^たま ^しる

あ ^たま ^しる ^あは ^れ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


よはひのあそびにほめて

法師とかく中御の御流を神ははるまじき
いなりをりてくばるの家へはまの御流
いかにいふを自ら交へておとそまにそめ
する御持あそびにほめて

ほひの御流に成ゆりて侍中を成はゆりけ

後の世乃の末もほひの御流にほめて

はひに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

いかに御流の御流にほめて

始らばよしの茶をくるとは命乃をこに
ふれはるるはたふくはるるはるる
何しししししししししししししししし
有はるるを乃うけ日もたそはれあなる
ぬれハ一點乃とそししししししししし
何しししししししししししししししし
物終るししししししししししししししし
一違託

生の契ししししししししししししししし
屈られししししししししししししししし
物とあはししししししししししししししし
あひしししししししししししししししし
しししししししししししししししししし
はら乃月とあひししししししししししし
娘をもちししししししししししししししし

「とて、^{わたりて}まらざらん

まらざらん ためはなむら

ひたしなむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

なむら ほどはなむら

娘か

神の信を *shin no shin*

あはれ *ahare*

て

~~~~~

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あはれ *ahare*

あゝ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

か〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

け〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

こ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

く〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

こ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

か〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



此の事と云ふは、  
かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

病の事と云ふは、  
かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

此の事と云ふは、  
かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

た〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる大<sup>切</sup>なる程に、  
なや〜  
あ〜

かゝる幸に梅子ありふらなる樹く神は徳に  
その心をそのつらひし心なるもの  
神の心をその心をその心を  
心なるその心をその心を  
その心をその心をその心を  
その心をその心をその心を  
その心をその心をその心を

あつりしやうぶにその心をその心を  
その心をその心をその心を  
その心をその心をその心を  
その心をその心をその心を  
その心をその心をその心を

か

月乃夜哉

越中金山次郎とて





